

## 学習フィードバックシート

プロジェクト名： ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」  
をハードウェアから開発する -

グループ名： GroupA

担当教員名： 三上貞芳，高橋信行，鈴木昭二

学籍番号 1018194 氏名 伊藤 壱

### 1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	6 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	8 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	7 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	7 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	9 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	19 /20	標準 14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	16 /20	標準 14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	82 /100	

(注)週報の不備を，システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

## 2.理由

私はプロジェクトリーダーとして、プロジェクト全体を問題なく完遂させるための努力をしてきました。はじめに、全ての会議には階出席し、私が司会進行を務めました。会議の中では進捗状況の確認や開発計画の提案などプロジェクト運営に関わることについて積極的に活動してきました。グループ内においても電子回路・プログラムの開発責任者としての提案や計画など、積極的に合意をとり決定を重ねてきました。以上のことから出席、積極性、協調性、計画性について上記の点数がふさわしいと評価であると考えました。成果発表会においてはグループを代表しての質疑応答に努めました。事前に聞かれるであろう質問のリストを作成し質疑応答に臨みました。もらった発表評価はしっかり読み、参考にさせてもらいました。しかし、実店舗へのロボットの設置が出来なかったため、実際の利用者からの評価をもらうことはできませんでした。以上のことから、発表会、外部評価について上記の点数をふさわしい評価だと考えました。週報に関しては全て提出しましたが、提出遅れや記述量が十分ではないと感じました。グループ報告書については十分な記述量を保ち、客観的な記述をするように心がけました。以上のことからグループ報告書、週報について上記の点数がふさわしいと考えました。以上のすべてを振り返り、プロジェクトリーダーかつ班員としての役割を全うしたと判断し、全ての項目に対する私の評価は正当なものであると考えました。

## 3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 藤内 悠：

プロジェクトリーダーとして最終成果物やその中間目標の設定に加えて、groupA の中ではソフトウェアの開発が中心ながらも時間のある時には設計の相談にも付き合ってください非常に助かりました。

サイン \_\_\_\_\_

コメンター氏名 宮嶋 佑：

ソフトウェア面ではほぼ任せっきりとなってしまいましたが、ほぼ理想どうりの動き、機能を実現していました。伊藤さんの学習意欲と実現力はすばらしいと感じました。

サイン \_\_\_\_\_

コメンター氏名 木島 拓海：

伊藤くんはソフトウェア設計、arudino などを担当してくれ、ロボットの側ができてからの組み込みを素早くやってくれました。またプロジェクトリーダーとして全体をうまくまとめてくれ伊藤くんはロボットの製作に大きく貢献してくれました。

サイン \_\_\_\_\_

## 3. 担当教員によるコメント

教員サイン 三上貞芳

教員サイン 高橋信行

教員サイン 鈴木昭二